学校番号	120

令和３年度　　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史Ｂ	単位数	４単位	年次	３年次
使用教科書	「詳説世界史Ｂ」　（山川出版）						
副教材等	ダイアローグ世界史図表（第一学習社）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

古代～近代までの世界の歴史を１年間で学習する。世界の歴史の流れという部分の理解から、現代の世界における諸課題を体系的に理解できるよう、さまざまな学習教材を活用して展開していく。暗記にとらわれることなく、国際社会を主体的に、正確な認識を身につけていけるよう一緒に学んでいきたい。

２　学習の到達目標

（１）　我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深める。

（２）　基礎的事項の理解を踏まえ、国際社会に生きる民主的、平和的国家の一員として必要な自覚と資質を養う。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に取り組もうしているか。	近現代史の理解をもとに、人類の課題を世界史的視野に立って多角的に考察できているか。	諸資料を活用し、歴史的事象を適切に表現する態度が身に付いているか。	古代～近世の歴史を理解するのに必要な基礎知識が身に付いているか。
評価方法	学習状況を、授業中の態度や発言、課題、ノート・プリント提出など総合的に評価し、かつ５回の定期考査をもって、総合的に判断する。			

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点 a	b	c	d	単元(題材)の評価規準	評価方法
1	第Ⅰ部 古代	**1. オリエントと地中海世界** **2. アジア･アメリカの古代文明** **3. 内陸アジア世界**	○ ○	○ ○	○ ○ ○	○ ○	a:古代文明の成立について、資料などを活用して関心を養う b:古代文明が成立した、自然的背景や過程などを体系的に理解し、表現できる c:資料を活用し、表現させる力を身につける d:古代文明でうまれた思想や技術が、現代にも引き継がれていることを理解する	定期考査 ノート・プリント 発表
2	第Ⅱ部 近世	**4. イスラーム世界の形成と発展** **5. ヨーロッパ世界の形成と発展** **6. 内陸アジア世界･東アジア世界の展開** **8. 近世ヨーロッパ世界の形成** **9. 近世ヨーロッパ世界の展開**	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	a:宗教・思想による、文明や文化の多様性などに興味関心を持たせる b:現代も続く地域や国家間の紛争の背景や課題を考察する c:資料や歴史地図を活用して、それを活用する力を身につけている d:近世世界の政治体制と歴史、その変容について理解する	定期考査 ノート・プリント 発表
2	第Ⅲ部 近代	**7. アジア諸地域の繁栄** **10. 近代ヨーロッパ･アメリカ世界の成立**	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	a:近代国家成立過程について、人物や資料をにふれて関心を養う b:近代国家の構造やその過程を、体系的に理解し、表現できる c:資料や歴史地図を活用して、それを活用する力を身につけている d:近代国家成立の意義、現在の問題点などを深く理解する	定期考査 ノート・プリント 発表
3	第Ⅳ部 現代	**･欧米における近代国民国家の発展** **･アジア諸地域の動揺** **･帝国主義とアジアの民族運動** **･二つの世界大戦**	○ ○ ○ ○	○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	a:近代国家発展過程について、人物や資料をにふれて関心を養う b:帝国主義時代からグローバル化した世界が成立した現代までの歴史を展望することができる c:資料や歴史地図を活用して、それを活用する力を身につけている d:帝国主義時代、世界大戦の意義、現在の問題点などを深く理解する	定期考査 ノート・プリント 発表

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　b:思考・判断・表現　c:資料活用の技能　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

学校番号	120

令和３年度　　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史Ｂ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「詳説世界史Ｂ」　（山川出版）						
副教材等	ダイアローグ世界史図表（第一学習社）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

古代～近代までの世界の歴史を、西洋史を中心に１年間で学習する。世界の歴史の流れという部分の理解から、現代の世界における諸課題を体系的に理解できるよう、さまざまな学習教材を活用して展開していく。暗記にとらわれることなく、国際社会を主体的に、正確な認識を身につけていけるよう一緒に学んでいきたい。

２　学習の到達目標

（１）　我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深める。

（２）　基礎的事項の理解を踏まえ、国際社会に生きる民主的、平和的国家の一員として必要な自覚と資質を養う。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に取り組もうしているか。	近現代史の理解をもとに、人類の課題を世界史的視野に立って多角的に考察できているか。	諸資料を活用し、歴史的事象を適切に表現する態度が身に付いているか。	古代～近世の歴史を理解するのに必要な基礎知識が身に付いているか。
評価方法	学習状況を、授業中の態度や発言、課題、ノート・プリント提出など総合的に評価し、かつ５回の定期考査をもって、総合的に判断する。			

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点 a	b	c	d	単元(題材)の評価規準	評価方法
1	第Ⅰ部 古代	・オリエントと地中海世界 1.古代オリエント社会 2.ギリシア社会 3.ローマ世界	○ ○ ○	○ ○	○ ○	○ ○ ○	a:古代文明の成立について、資料などを活用して関心を養う b:古代文明が成立した、自然的背景や過程などを体系的に理解し、表現できる c:資料を活用し、表現させる力を身につける d:古代文明でうまれた思想や技術が、現代にも引き継がれていることを理解する	定期考査 ノート・プリント 発表
2	第Ⅱ部 近世	・ヨーロッパ世界の形成と発展 ・近世ヨーロッパ世界の形成 ・近世ヨーロッパ世界の展開	○ ○ ○	○ ○	○ ○	○ ○ ○	a:宗教・思想による、文明や文化の多様性などに興味関心を持たせる b:現代も続く地域や国家間の紛争の背景や課題を考察する c:資料や歴史地図を活用して、それを活用する力を身につけている d:近世世界の政治体制と歴史、その変容について理解する	定期考査 ノート・プリント 発表
2	第Ⅲ部 近代	・近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立 1.産業革命 2.アメリカ独立革命 3.フランス革命とナポレオン	○ ○ ○	○ ○	○ ○	○ ○ ○	a:近代国家成立過程について、人物や資料をにふれて関心を養う b:近代国家の構造やその過程を、体系的に理解し、表現できる c:資料や歴史地図を活用して、それを活用する力を身につけている d:近代国家成立の意義、現在の問題点などを深く理解する	定期考査 ノート・プリント 発表
3	第Ⅳ部 現代	・欧米における近代国民国家の発展 ・アジア諸地域の動揺 ・帝国主義とアジアの民族運動 ・二つの世界大戦	○ ○ ○ ○	○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	a:近代国家発展過程について、人物や資料をにふれて関心を養う b:帝国主義時代からグローバル化した世界が成立した現代までの歴史を展望することができる c:資料や歴史地図を活用して、それを活用する力を身につけている d:帝国主義時代、世界大戦の意義、現在の問題点などを深く理解する	定期考査 ノート・プリント 発表

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　b:思考・判断・表現　c:資料活用の技能　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。